

Environmental report
環境報告書2023
HIRAOKA & CO., LTD.



平岡織染株式会社

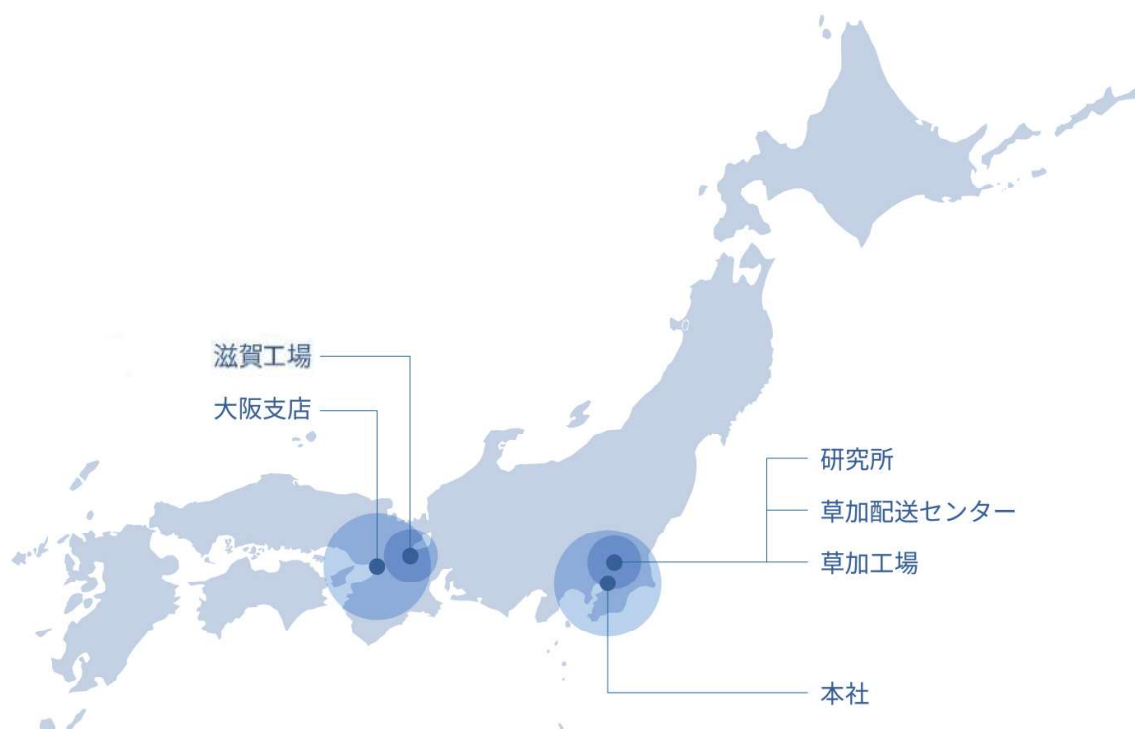
当社について	P.3
環境保全活動の歩み	P.4
トップメッセージ	P.5
リスクマネジメント	P.6
当社のビジネスモデル	P.7
環境基本方針	P.8
環境中期計画	P.9
環境報告の全体像	P.10
環境負荷低減への取り組み	
【省エネルギーの推進】	P.11
【気候変動抑制】	P.12
【水資源・生物多様性保全】	P.13
【産業廃棄物削減】	P.14
【化学物質の適正管理】	P.15
【大気汚染予防】	P.16
【環境改善活動】	P.16
人と環境にやさしい製品づくりそして企業活動	P.17
環境配慮製品	P.19

当社について

会社概要

名 称	平岡織染株式会社
本社所在地	東京都台東区三ノ輪 1-21-7
代 表 者	平岡利文
資 本 金	48,438 千円
創 業	明治35年 8 月（1902年）
事 業 所	東京本社、大阪支店、草加事業所、滋賀ターポリン工場（以下、滋賀工場）

国内ネットワーク



環境保全活動の歩み

- 2002.12 滋賀工場が滋賀県の「大気環境負荷低減計画実施事業場」証明書受理
- 2003.03 草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
- 2004.01 草加事業所にガスコージェネレーション(550kW)を導入設置、稼働開始
- 2006.08 草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置(150m³/分)を導入設置、稼働開始
※VOC大気放出量の大幅削減に貢献
- 2008.11 滋賀工場の重油焚きボイラ3基を高効率のガス焚きボイラに更新し、
同工場の重油使用を全廃
- 2010.12 草加事業所の重油焚きボイラ2基を高効率のガス焚きボイラに更新し、
全社の重油使用を全廃
- 2012.05 滋賀工場、湿式電気集塵機(排煙処理装置)追加設置・稼働開始
- 2013.05 滋賀工場、脱臭装置新規設置・稼働開始
- 2014.01 草加事業所の照明器具全てをLEDタイプにリニューアル開始
- 2015.04 草加事業所に高効率型ロールコーターを導入設置、本格稼働開始
- 2016.08 草加事業所の蒸気ボイラー(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2018.03 滋賀工場の帆布熱処理炉を熱媒加熱式高効率型(臭気低減タイプ)に改修
- 2018.07 滋賀工場棟の照明器具全てをLEDタイプにリニューアル開始
- 2018.09 草加事業所の排水処理施設を最新型加圧凝集浮上設備へ更新
- 2019.01 滋賀工場の熱媒ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2019.03 草加事業所のガスコージェネレーション(550kW)を700kWタイプに更新、稼働開始
- 2020.02 滋賀工場の高圧蒸気ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2021.02 滋賀工場の蒸気ボイラ(ガス焚き)2基を高効率型に更新、稼働開始
- 2021.03 草加事業所および滋賀工場棟において、照明器具のLEDタイプ切換え計画分の
工事を完了
- 2022.05 草加事業所 厚生棟の屋根を遮熱塗装での改修工事
- 2023.03 草加事業所、滋賀工場で使用済み作業着のリサイクル回収開始

■ トップメッセージ

「一枚布」に込めた想い

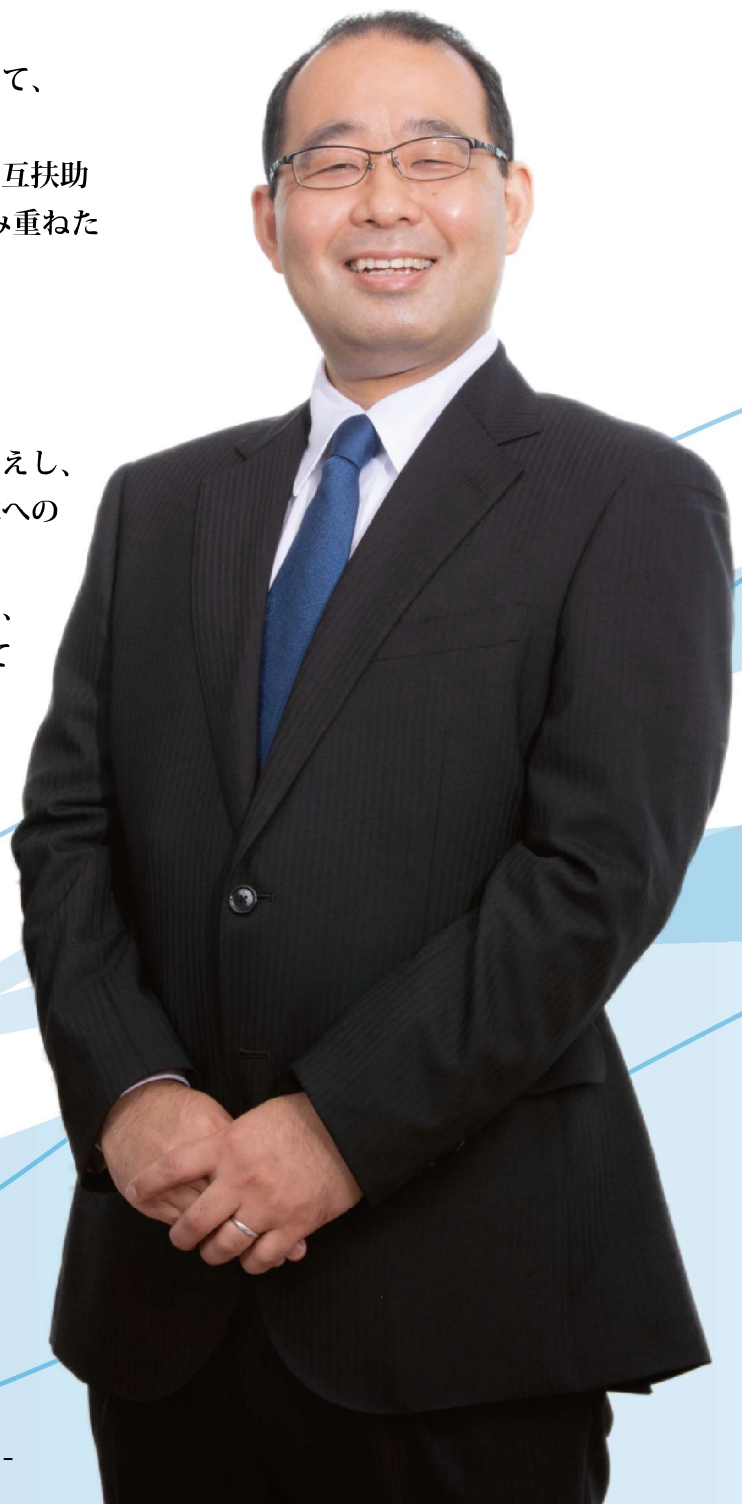
当社は、繊維基材と高分子材料を独自の配合技術と加工技術を組み合わせて一体化させ、軽量で丈夫な「布」等、多種多様な「布」（膜材料製品）を作り提供し続けてきました。

そこには、社会の一部として、繊維産業界において、お客様からのニーズにお応えできる製品をお届けするために当社が一枚岩となって、一致団結・相互扶助してきた100年以上に及ぶ挑戦と試行錯誤を積み重ねた歴史があります。

当社の膜材料製品の一反（いったん）・一枚には、これらすべての歴史が詰まっています。

「一枚布」は、その想いを込めた当社の造語です。さまざまな時代のニーズ、お客様のご要望にお応えし、未来のインフラ膜材料を創作し続けながら、地球への環境負荷軽減と循環型で持続可能な、人と環境にやさしい社会の創造という大きな課題にも挑戦し、私たちは次の100年に向けて、企業活動を続けてまいります。

代表取締役社長 **平岡 利文**



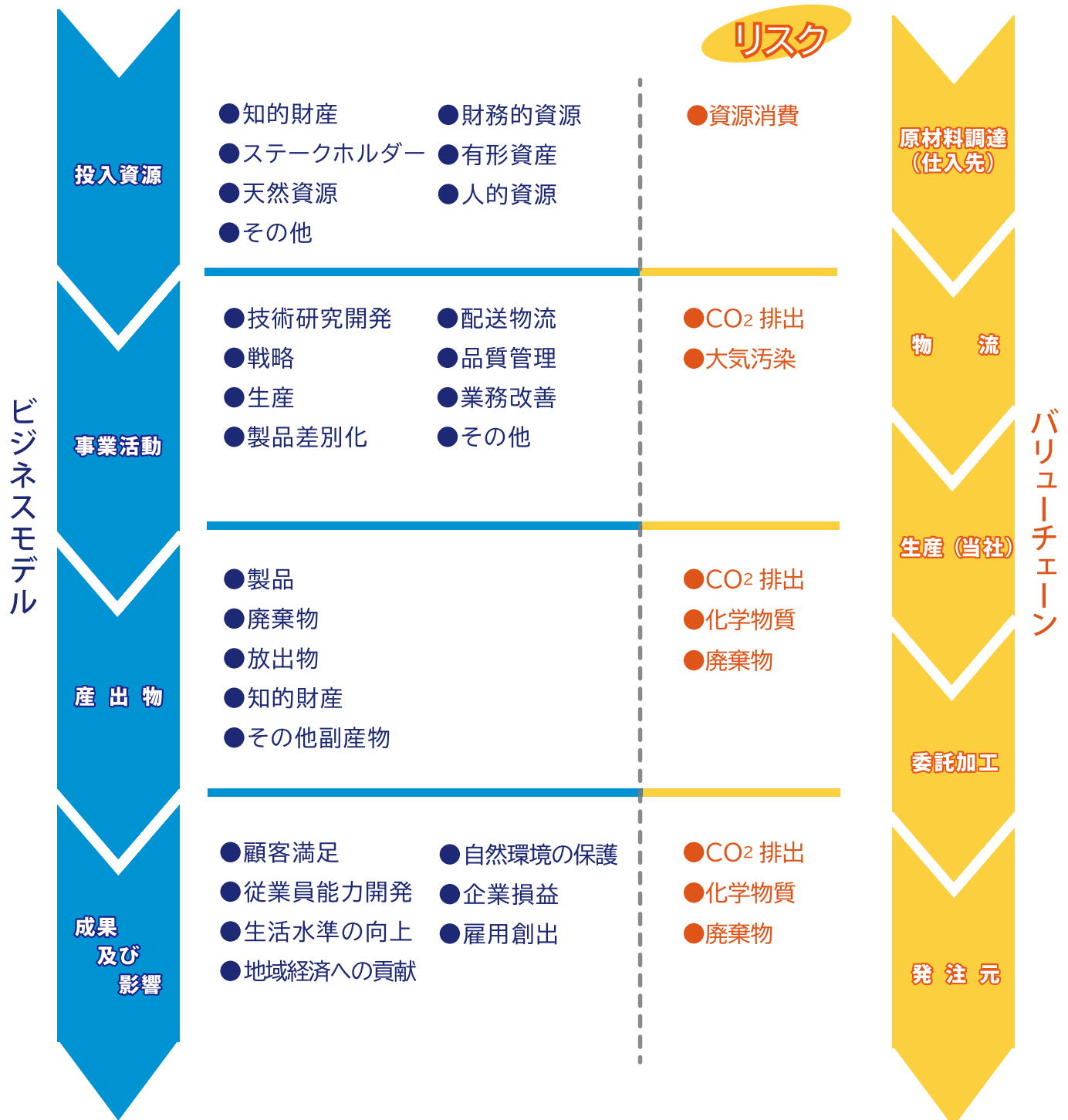
■ リスク管理体制

リスクマネジメントの推進

- 重要な環境課題に関連するリスクの特定・評価と対応策は、営業部門と技術部門合同の連絡会議において毎月検討しています。
- 当社の事業活動に重大な影響を及ぼすおそれのあるさまざまなリスク項目のうち、重要な環境課題に関連するリスクとしては化学物質規制強化への対応が挙げられます。
例としては、当社の主要製品群で使用しているフッ素系撥水剤が近い将来に規制対象となる可能性が高くなっており、代替吸水防止処理技術の研究と代替資材対応策が急務となっていることなどがあります。
- リスクマネジメントの有効性評価は経営幹部会議の中で適宜実施しています。



当社のビジネスモデル



環境基本方針

平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで機能的で使いやすい製品を製造、提供しています。機能性や特性を重視する建築、土木、車輛といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいています。

私たちは、企業が成長し続けるためには、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しています。

事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防の継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。
特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する各法規制を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。



2019年3月導入 ガスコージェネレーション

環境中期計画

当社は、2022年度から2024年度までの環境中期計画において、以下の目標を掲げ、取り組んでいます。

CO₂排出量削減目標
産業廃棄物処分量削減目標

2021年度の実績を基に
3年間で3%削減

年 度	基準年度 (2021)	2022	2023	2024
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /千㎡)	484	516	TBA	TBA
産業廃棄物処分量 (kg/千㎡)	67.7	65.0	TBA	TBA

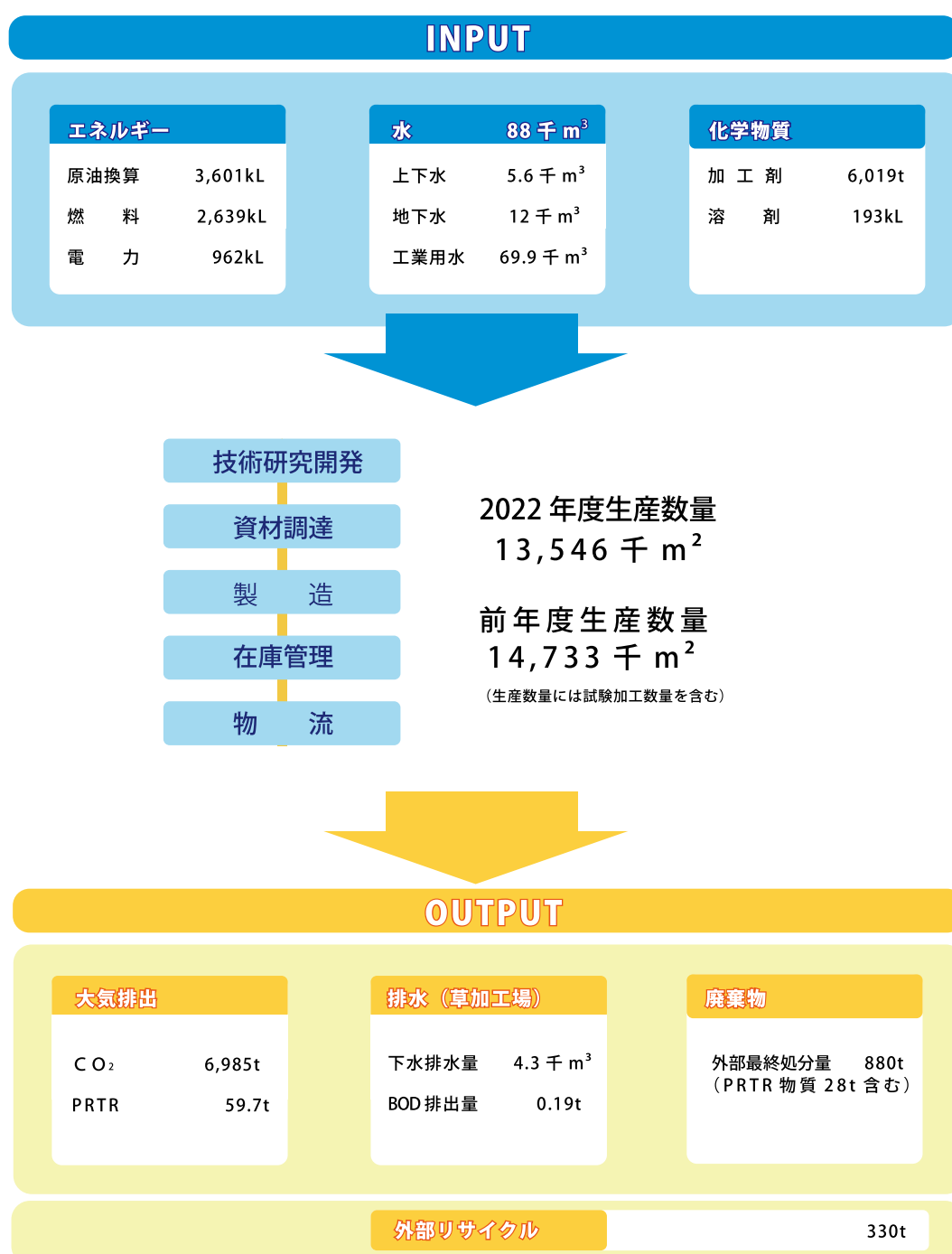
原単位は生産数量から算出しています。

環境報告の全体像

【事業活動における環境負荷】

当社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷実態を正確に把握し、低減に努めています。

2022年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



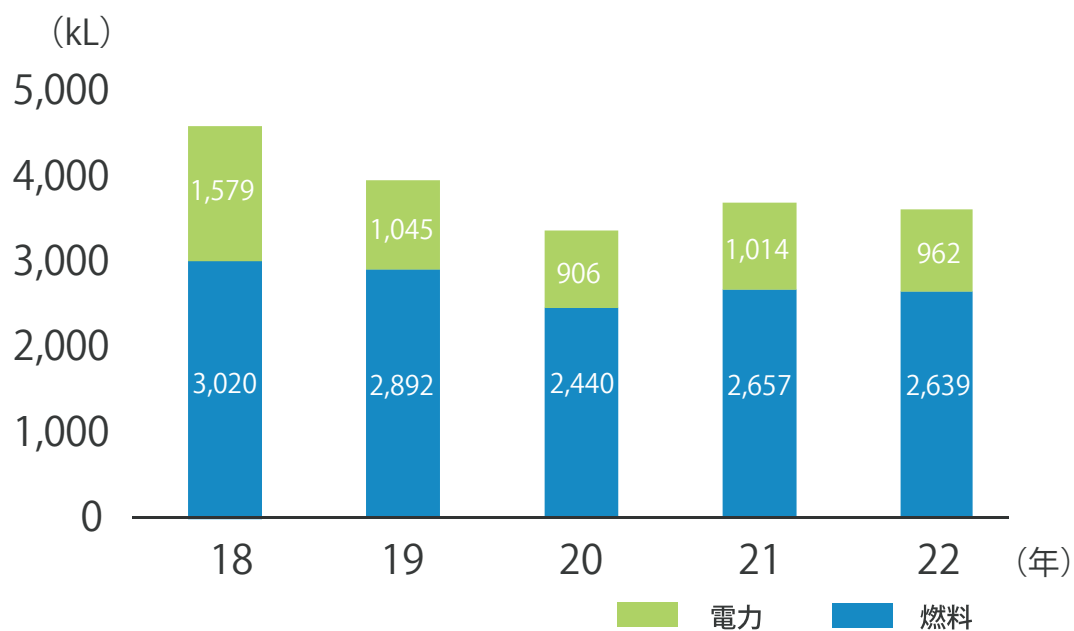
環境負荷低減への 取り組み

省エネルギーの推進

コロナ禍の影響で、2020年度は草加・滋賀の両工場のエネルギー使用量が急激に減少しましたが、その後もコロナ禍前の水準を下回る範囲で推移しています。
当社としては屋根・窓の遮熱対策や照明のLED化など、堅実に省エネを推進しています。

年度毎の原油換算エネルギー使用量

年 度	2018	2019	2020	2021	2022
電 力 (kL)	1,579	1,045	906	1,014	962
燃 料 (kL)	3,020	2,892	2,440	2,657	2,639



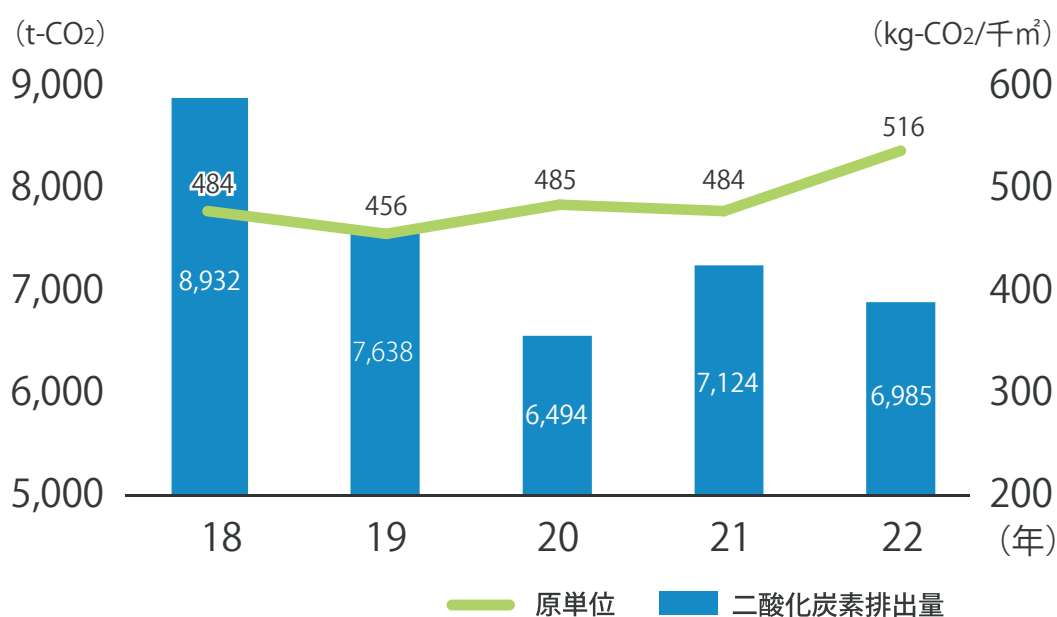
環境負荷低減への取り組み

気候変動抑制

2022年度の工場全体のCO₂排出量は、前年度比2.0%減の6,985t-CO₂でした。また、原単位排出量（生産数量当たり※¹）については、生産数量が前年度比で8.1%減少したことに伴う、生産効率悪化の影響が大きく、6.6%増となりました。今後は、工場全体の協力と革新的な取り組みによって、環境への負荷を軽減しつつ、生産性を保つ道を模索してまいります。

年度毎の二酸化炭素排出量※²

年 度	2018	2019	2020	2021	2022
二酸化炭素排出量 (t-CO ₂)	8,932	7,638	6,494	7,124	6,985
原単位 (kg-CO ₂ /千m ³)	484	456	485	484	516
生産数量 (千m ³)	18,440	16,745	13,398	14,733	13,546



※¹ 原単位の生産数量には、試験加工数量も含んでいます。

※² 二酸化炭素排出量の算出において昨年度は、都市ガス使用量(m³)を15℃、0.981kPa(購入量の基準値)としましたが、今年度は正規のNm³値(0℃、1気圧換算値)に訂正しています。

環境負荷低減への取り組み

水資源・生物多様性保全

◆当社対象範囲について

工場排水を行っているのは、染色を行っている草加事業所です。そのため、水質汚濁防止法の適用対象は草加事業所のみとなり、滋賀ターポリン工場は適用対象外となります。

◆草加事業所における取組状況

2018年度から硬貨袋用シートの製造中止に伴い、染色排水量が激減したことで、排水処理施設の最新型加圧凝集浮上設備へ2018年に更新したことにより、BOD※¹排出量が極端に減少しています。

草加事業所では下水の水質自主検査を毎月実施しています。

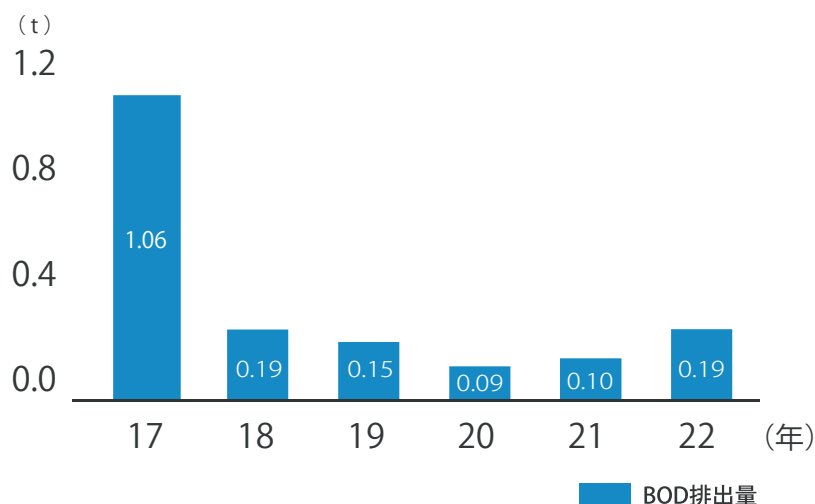
今後も引き続き、草加市下水道条例で定める下水排除基準に適合した水質維持に努めてまいります。

※1 BOD・・・Biochemical Oxygen Demand 生物化学的酸素要求量
水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したもので、過剰な有機物の排出が招く腐敗による酸欠により、水中の酸素（溶存酸素）が減少すれば、魚類等の好気性生物が生存できなくなり、さらになくなった場合には、いわゆる「水が腐る」状況となり悪臭等の発生に至る（魚類が生存可能な溶存酸素濃度の下限が3-5mg/Lと言われ、環境基準のCタイプの基準値として採用されている）。



年度毎のBOD排出量

年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
BOD排出量(t)	1.06	0.19	0.15	0.09	0.10	0.19



環境負荷低減への 取り組み

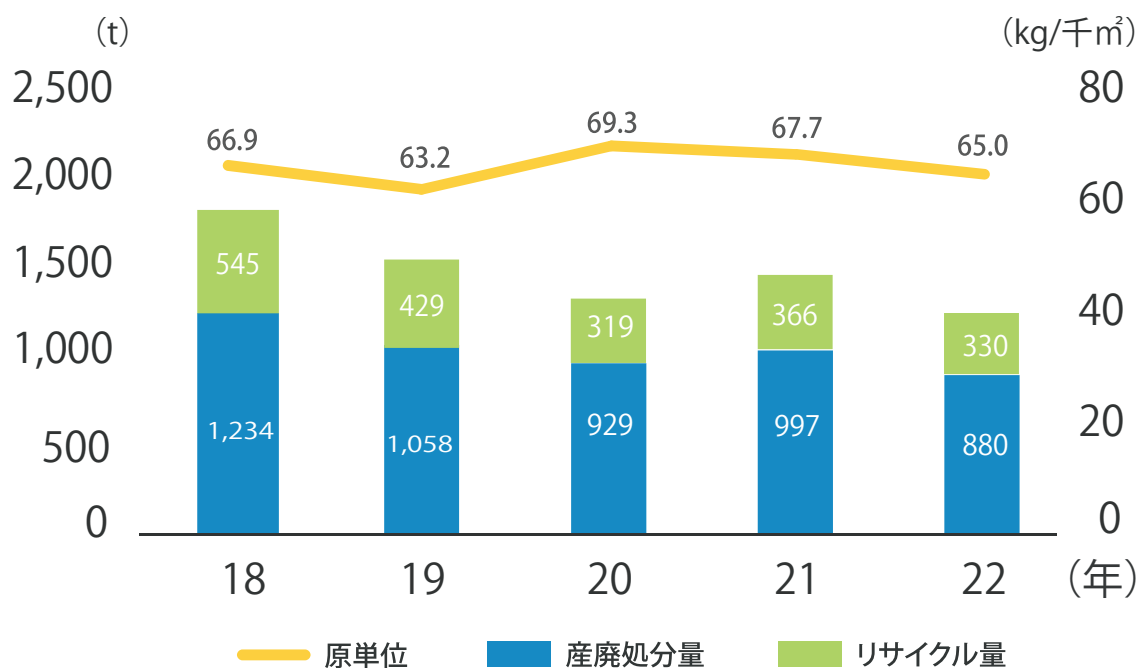
産業廃棄物削減

2022年度の産廃処分量は880tで前年度11.7%減少しました。

生産量が8.1%減少したことが主要因です。原単位でも4.0%減少しました。一方、産廃処分量の削減を進めるため、新規リサイクル業者を開拓しております。

年度毎の産業廃棄物発生量

年 度	2018	2019	2020	2021	2022
産業廃棄物処分量 (t)	1,234	1,058	929	997	880
リサイクル量 (t)	545	429	319	366	330
原単位 (kg-CO ₂ /千m ²)	66.9	63.2	69.3	67.7	65.0



環境負荷低減への取り組み

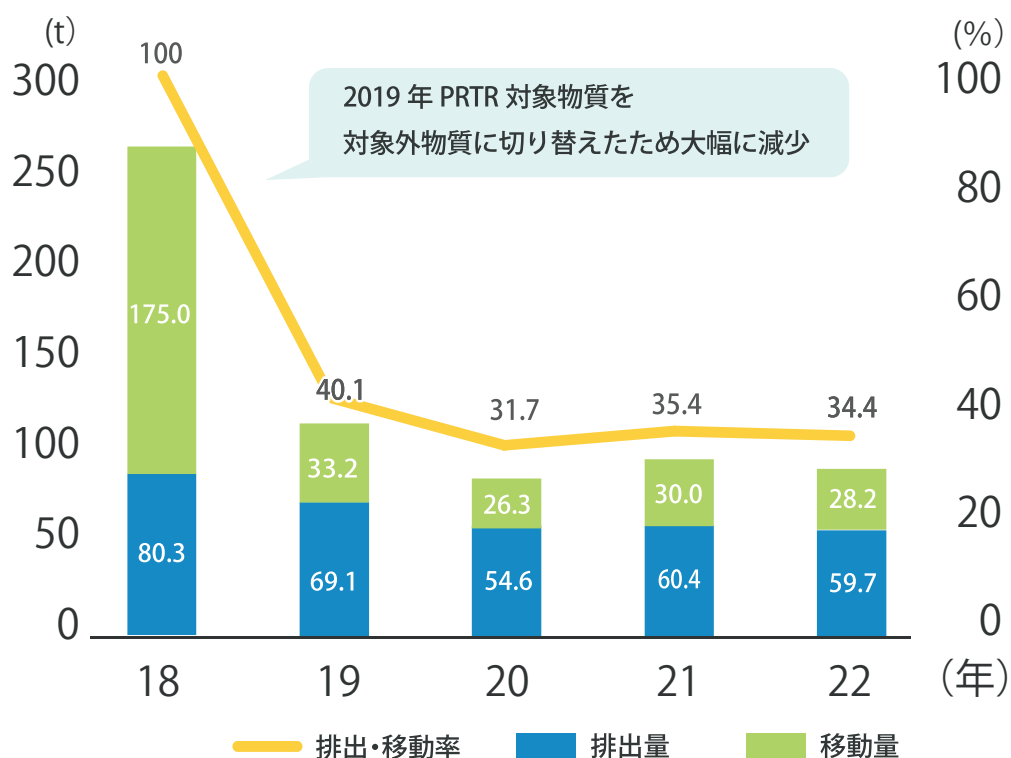
化学物質の適正管理

2022 年度は前年度と比較して、排出量、移動量とも減少しました。要因は生産量が 8.1% 減少したことによるものです。

排出量は 2022 年度から排煙処理装置除去率を算入し、過去 4 年の排出量も修正しています。

年度毎の P R T R 届出排出移動量

年 度	2018	2019	2020	2021	2022
排出量 (t) ※1	80.3	69.1	54.6	60.4	59.7
移動量 (t) ※2	175.0	33.2	26.3	30.0	28.2
排出・移動量推移(%) ※3	100	40.1	31.7	35.4	34.4



※1 排出量は大気放出量

※2 移動量は産廃処分量

※3 排出・移動量推移は、2018 年度を基準 (100%) とした場合の増減

環境負荷低減への 取り組み

大気汚染予防



2006年8月導入 RTO

SO_x（硫黄酸化物）排出量は、ボイラ燃料の完全ガス化（A重油全廃）により、2011年1月からゼロとなっています。ばいじん排出量も、都市ガスへの燃料転換による効果で、極めて低い水準で推移しています。

揮発性有機化合物（VOC）の排出抑制では、グラビア塗工機から発生する有機溶剤ガスを蓄熱式排ガス浄化装置（RTO）に導入、95%以上を燃焼処理し、大気放出量の大幅削減に貢献しています。

環境改善活動



アップサイクル・リサイクル

厳格な品質チェックによって使用不可と判断された基布の一部や加工過程で生じた廃棄物を再生し活用すること等を企画、検討中です。

※アップサイクルとは・・・

廃棄物や不要になった物を別の価値のある新しい製品に生まれ変わらせること。

※リサイクルとは・・・

廃棄物や不要になった物を再資源化し、新しい製品の材料として利用すること。

人と環境にやさしい 製品づくり そして企業活動



すべての人に健康と福祉を

化学物質排出移動量届出制度に基づく取り組みを行っています。燃料油、溶剤、塗料等の揮発を防止する等、VOCの排出抑制に取り組んでいます。大気汚染の少ないプロセスや都市ガス燃料を採用しています。



エネルギーをみんなに そしてクリーンに

エネルギー使用量を把握・報告し、削減に取り組んでいます。ガス・コージェネレーションシステムを導入することにより昼夜の電源の平滑化を図りエネルギー効率を改善しています。



つくる責任 つかう責任

分別回収ボックスの適正配置により、ごみの分別を徹底しています。溶剤回収システムを導入し大気への放出を最小限に抑えています。製品のライフサイクル長寿化に常に取り組んでおり、廃棄物の削減を図っています。



グリーンハウス専用膜材を開発し、世界的に有名なテントメーカーに納入することを通じて、世界中で農業生産性を向上させるグリーンハウスの普及を支えています。



発展途上国含め、すべての人の働く権利を守って安全に安心して仕事ができる環境を作っています。



魚介類の養殖用に無毒ターポリンを提供しています。栽培漁業に使用される膜材を提供しています。



安全な水とトイレを世界中に

水質汚濁の少ないプロセスや機器を採用しています。排水処理装置を適切に設置し、排水等の監視及び測定や排水処理設備の点検を定期的に行い、適正に管理しています。



住み続けられるまちづくりを

産業廃棄物最終処分量、発生量の削減に取り組んでいます。化学物質使用量の把握と削減に取り組んでいます。ばい煙等の監視及び測定や排気処理設備の点検を定期的に行う等、適正に管理しています。



気候変動に具体的な対策を

温室効果ガス排出量を把握し、環境負荷低減に取り組んでいます。遮熱効果のあるクールマックスシリーズを商品化し、気候変動対策へ貢献しています。災害に遭遇した場合でも事業を復旧し、継続するための計画や準備に取り組んでいます。



セクシャルハラスメント・パワーハラスメントなどの人権侵害を予防するための社員教育を行っています。従業員、またはその家族の妊娠・出産・育児・介護・看護、その他健康状態に配慮した労働環境を整備しています。



製品の同一機能に対して資源使用量のミニマム化を指向しています。また、製品の長寿命化を指向しています。産学官連携を行っております。

人と環境にやさしい 製品づくり そして企業活動

紙製ファイル



従来のプラスチッククリアファイルに
替え、ベジタブルオイルインキを使用し
カーボンオフセット※¹を付加した紙製の
ファイルをお客様へのサンプル送付時等に
使用しています。
紙製ファイルの裏面には、SDGsに対する
当社の取り組みを掲載しています。

※¹カーボンオフセットとは…

日常生活や経済活動において排出されるCO₂排出量を認識し、
できるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、それでも
削減が困難な排出量は他の場所で実現したCO₂排出削減量を購入
することにより、自身の排出量の全部または一部をオフセット
(埋め合わせ) する活動。

事業所内の照明をLEDに刷新



工場内全体に展開されたLED照明の
取り組みは、環境への配慮と経済的な
利益の両面で成果を上げており、今後も
持続可能なエネルギー管理の一環として
取り組んでまいります。

環境配慮製品

当社は、開発する製品に対し環境負荷低減を追求しエコプロダクツ（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。

遮熱シリーズ

地球温暖化の問題が叫ばれるようになり、世界的な規模で温暖化対策が求められています。ヒラオカでは大きな熱エネルギーを持つ太陽光が当たるテント膜材に遮熱シリーズを展開し、膜構造物内部空間に対する暑さ対策のソリューションを提案しています。



■ クールマックス®シリーズ

太陽光の赤外線を効果的にカットすることで膜材への熱移動を抑え、内部温度の上昇を抑制することのできる遮熱性を有した膜材料シリーズとなります。

■ ウルトラマックス®クール

テント倉庫用膜材であり保管物の熱ダメージ軽減にも寄与します。

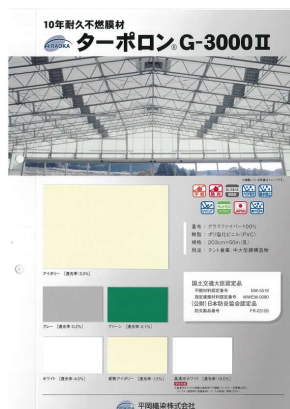
■ エバーマックス®450クール

中大型テント用膜材であり、活動空間である内部空間の環境改善、冷却コストの抑制にも寄与します。

■ サンドリーム®2クール

透明テント膜材であり、赤外線を透過しやすい透明膜材にも遮熱タイプをラインナップ。（受注生産）

NEW



■ 10年耐久不燃膜材

ターポロン®G-3000 II 遮熱アイボリー

2023年6月にG-3000 IIのバリエーションに遮熱アイボリーが加わりました。

不燃膜材使用のテント建築物においても通常品に比べ日中の内部温度上昇を抑制することが出来ます。

環境配慮製品

バイオマスプラスチック製品



〈開発提案品〉

バイオマスターポリン

軟質塩ビフィルム中の汎用可塑剤を石油由来から植物由来に変更したターポリンです。石油由来資源プラスチックを15%削減できるだけでなく、成長過程でCO₂を吸収する植物を由来とした成分の使用により大気中のCO₂の発生量を抑えることができます。

CO₂低減ターポリン



両面印刷用遮光ターポリン

アドマックス®SJT - V200FD

当社従来品と比較し、構成材料中の有機量を30%低減しました（計算値）。これにより燃焼時のCO₂排出量を抑制します。

非塩ビターポリン



エコターポ® 非塩ビカラーシリーズ

燃えた時にダイオキシンや塩素ガスが発生する原因となる材料を含んでいません。またフタル酸フリーで安全性の高いターポリンです。抗ウイルス性能により衛生面にも配慮しています。



編集方針

【報告書の対象期間】

2022年4月1日～2023年3月31日

【報告書の対象範囲】

東京本社、大阪支店、草加事業所、滋賀工場

訂正履歴

2023年12月15日

15頁 PRTR届出排出移動量数値修正

